

熊 事 研 会 報

第109号

平成24年12月10日

発行人 熊本県学校事務研究協議会

会長 藤川 英一

編集代表 研究部長 平木 雅万

〒869-4601 八代郡氷川町今 39

TEL0965(62)2525 FAX0965(62)4460

- ・研究部長挨拶
- ・第38回研究大会分科会記録
- ・全体講演会講師・赤瀬先生より
- ・本田校長先生より
- ・編集後記

第38回熊本県学校事務研究大会を終えて



師走にはいり、会員の皆様にはなにかとあわただしい毎日をお過ごしのことと拝察します。

さて、第38回熊本県学校事務研究大会は、10月22日(月)・23日(火)に「変革の時代に対応する学校事務の創造～子どもの豊かな育ちを支援する学校事務～」をテーマに開催しました。今年度は、年末調整等で忙しい時期をさけ、10月に開催させていただきましたが、月曜・火曜の開催であったためか、参加総数557名と昨年度をわずかに下回りました。今後できる限り会員の皆様がより多く参加していただけるよう検討していきたいと思えます。

1日目の全体研究会では、第1部で前石巻市立中里小学校長の赤瀬博行氏により東日本大震災時の避難所としての学校のあり方に関する講演をいただき、第2部では熊本県、熊本市双方の防災担当者と校長会代表による防災拠点としての学校の役割を考えるパネルディスカッションを行いました。全体を通じて防災拠点としての学校の機能と事務職員の役割を考えるきっかけにはなったのではないかと考えています。今後はそれぞれの学校での実践に役立てていただければ幸いです。

2日目は、今年度より各地区隔年発表ということで、6地区にレポートをいただき分科会を実施いたしました。レポートの組合せが難しく、分科会の運営に苦勞された分科会もありましたが、全体的には実りある論議と実践交流ができたと感じています。今後も各地区の創意工夫で分科会を盛り上げていただきたいと思います。第4分科会は「学校事務ステップアップ講座」としてコミュニケーションスキルアップ講座を開催しました。アンケートの結果を見ても、参加いただいた皆様には概ね満足いただいたようです。今後も会員の皆様のご要望にこたえられるような講座を継続していきます。

今大会の開催のためにご後援、ご協力いただきました熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、市町村教育委員会連絡協議会、熊本県小中学校長会、県PTA連合会をはじめ関係各位、講師や助言者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。また、大会運営に携わっていただいた発表地区の皆様、大会協力員の皆様にも心よりお礼申し上げます。皆様のおかげで成功裏に大会を終えることができました。ありがとうございます。

来年度の大会は、10月23日(水)・24日(木)に本年と同じ会場で開催する予定になっております。役員一同、皆様から頂いたご意見を参考に、より満足いただける大会運営をめざして努力して参ります。今年度以上の参加と、更なる論議の深まりを期待しているところです。よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、これから本格的な寒さに向かいます。会員の皆様には、くれぐれもご自愛いただき職務に、各地区研での研究に益々精進していただきたいと思います。私たち役員一同も、会員の皆様のご要望に応えられるよう精一杯努力していく所存です。

それでは皆様、良いお年をお迎え下さい。

熊本県学校事務研究協議会 研究部長 平木雅万

第38回研究大会分科会の記録



第1分科会「学校経営と学校事務」

分科会記録者（上益城地区：大澤成美）

1. レポートの概要

第1レポートは「キャリアに応じた学校事務職員像で未来を拓く（第36回県大会発表）」の続編であり、前回発表時点の課題でもあった「学校等での具体的な取組み」について研究会組織として取り組んでいる上益城郡学校事務研究会（以下、上事研）の活動（以下の3点）をまとめたものである。

- ①「会計一元化」及び「給食会計への取組み」の2つの実践
- ②「キャリアに応じた目指す学校事務職員像」（以下、「事務職員像」）の見直し
- ③会員をキャリア毎のグループに分けた研究体制（以下「グループ研」）

なお、①は個人の実践、②は個人向けの指標だが、そこで止めず、③の研究テーマとする等、研究会で研究に着手し始めたことに加え、今後の展望（個人と研究会組織の双方の向上のために町事務研や共同実施との連携を重要視していること）が紹介されている。

2. 分科会の流れ

プレゼンや別冊資料を使った発表後、討議の柱を『個人、組織、それぞれのよさを生かし「子どもたちのための学校事務」を目指すには何に取り組むべきか?』として、質疑応答と討議を合わせる形（午前のみで終了するため簡略化）で進められ、最後に助言者のまとめがあった。

3. 研究内容と交わされた論議

会計一元化の実践レポート中の「「学校事務職員に必要となるマネジメント力」について具体的な方策はあるか」の質問に対し、「一元化する前と比較し、効率化された時間等について担任に具体的に示したい。」と回答があった。

また、「事務職員は単数配置が多く、異動もあるため、新しいシステムを作ることができても維持できるのか」に対しては、「共同実施などに新しいシステムを広げておけば、異動があっても、そこで教え合うことができると考えている。」と回答があった。

そして、上事研の参加者から、「会計一元化については、具体的で細かなマニュアル等があれば、初めての人にも取っ掛かりができる。給食の公会計化についても、現在、「グループ研」で調べているが、資料など次に託せるものを残したい。」との意見が出た。

他にも人吉地区の参加者から、所属地区の取組みについて話があった後、「50代半ばで「事務職員像」の山頂あたりと思い、それなりの勉強をして、それなりの責任を果たすべきと思うが難しい。「地域の教育力向上を図る期」についての実践と成果を今後発表していただきたい。」と期待を込めた意見もあった。

4. 助言者のまとめについて

「1人1人が意識してモチベーションを持続させるのは難しいが、県下で共有してやれば熊本県のレベルがもっと高くなる。」「組織的な取組みには、校内、近隣校間と2つある。近隣校間では相談したり、学んだり、ベテランは指導等、仲間意識を持ち、お互いを高めて欲しい。」との意見を頂いた。

分科会記録者（荒玉地区：米田圭織）

1. レポートの概要

第2レポートは、危機的な状況に応じて、どのように行動するか、あるいは事前にどのような準備をしておけばよいのかを実践事例をもとに、対応のポイントをまとめた。また課題として、非常災害時において多くの学校が避難所となるが、適切な措置が不十分であることをあげている。

2. 分科会の流れ

レポート発表後、実際に実施された避難訓練の事例を紹介し、助言者から避難所になった場合の学校の様子をお話いただいた。その後「実際に自然災害等が起こった場合、事務職員としてどのように行動したらいいのか」を討議の柱として学校規模ごとにグループ討議を行い、討議の中で出た疑問を助言者に応えていただき、最後に、助言者にまとめていただいた。

3. 研究内容と交わされた議論

まず、助言者から学校が避難所として適切であるか、という問いかけがされた。また、避難所を運営していくために、避難してくる人数をあらかじめ確認し、部屋割りを考えておくこと、避難所になった場合、地域の方の協力が必要不可欠であることから、日頃から、地域の方との連携を図っておくことが大切であるというお話があった。

グループ討議の中では、事務職員としてできることを出し合った。

グループ討議後の質疑応答では、内示は例年どおり行われたが、4月の第2週目までは前任校に勤務してもよかったこと、教職員の勤務については3月31日分までは手当が出たこと、東日本大震災で被害があった中里小では被災後防災計画の見直しが行われたこと、職員の勤務時間外に災害が起きた場合の対応の仕方、職員を3グループにわけ、地域の方に協力してもらうことで、職員の休みを確保したこと、保健室は精神科医と小児科医の診療所にしたこと等が出てきた。

4. 助言者のまとめについて

東日本大震災の経験をもとに、避難をしてきた人の名簿をつくることや、地域の方との連携を図ることを再度強調され、緊急の場合は事務職員でも決断しなければいけないことがあることを付け加えられた。



助言者の赤瀬先生によるまとめです。

第2分科会「教育条件整備」

分科会記録者（熊本地区：松川千晶・八代地区：山下小百合）

1. レポートの概要

第1レポート「インクルージョンの視点に立った学校事務」

熊本地区は、熊本市内の事務職員へのアンケートや大阪府の中学校へのフィールドワークを通して現状を調査し、常にインクルージョンの意識を持って施設・設備を見ると、自ずとバリアフリーやユニバーサルデザインのアイデアが浮かんでくるという取組が報告された。

第2レポート「財務ウィークへの取り組みに向けて」

八代地区は、グループ研で「11月第1週を財務ウィークと考え何か取り組んでみよう」というコンセプトのもと、備品紹介の事務だよりを作成し、財務ウィークで発行することで、学校での反応や反省・感想を今後の教育条件整備に向けて生かし、事務職員の存在意識の向上や財務を通じて学校評価への参画ができないか提案された。

2. 分科会の流れ

レポート発表後、質疑応答を行い、その後第1レポート「特別支援教育の現状と課題」「バリアフリーの現状と課題」、第2レポート「学校財務に向けての情報発信」を討議の柱として情報交換・討議し、助言者にまとめていただいた。最後に総括討議「教育条件整備のニーズに応える学校事務」について討議し、助言者による感想、今後の展望が述べられた。

3. 研究内容と交わされた論議

【第1レポート】それぞれの学校で特別支援教育に関してどんな実践をしているか、要望・実現の例等を会場から発表していただいた。その時に応じて担当からの要望で施設を整えたり備品購入したりするが、該当児童・生徒が卒業してしまうと利用されずお蔵入りになることも多い。共同実施単位でリソースセンターのような有効活用の工夫はできないか。また、予算面が厳しくすぐに実現できないような場合、例え該当児童・生徒が利用する期間が短くても将来の誰かのために要望を継続していく必要があるという意見があった。

助言者からは、一人では大変なときにはチームで行動を。横の繋がりを大切に、親の思いを巻き込んで波を起こし地区や校長会を動かして解決してほしい。経験豊かな先輩方をどんどん利用して創造力・自由な発想で条件整備をしてほしいとの意見をいただいた。

【第2レポート】あまり“財務ウィーク”という言葉になじみがないためか、意識して取り組んでいる方はほぼいなかった。しかし、各地域の取り組みを尋ねられると「発表の内容を見ると普段各学校でよく取り組んでいること。今後はやってみよう」と思うと多くの方が答えられ、“財務ウィーク”を身近に感じることができたい提案の場となったようだった。

司会者から、事務だよりを発行することで教育活動に関わることが大切だが、一歩進めて存在意識を高めるところまでいけたらと思うがどうだろうという提案に、会場から「事務職員の立場から、財務の面から学校経営に参画することが、将来的には大事」と答えがあった。

助言者からは事務だより・壁新聞を発行するには力があるし継続するのは大変だと思う。発表の場は若い人になるだけさせるようにしており、力をつけるいい場だと思う。事務だよりを通じて頑張っている事務職員をアピールできるいい機会なのでぜひ続けて欲しいとの意見をいただいた。

【総括討議】事務職員として保護者のニーズを考えていかななくてはならないが、保護者が周囲の目を気にして地元の学校への進学を希望する場合もあるかもしれない。『子どものため』に何がいいのか考えるべきという意見が出た。

また施設整備等は専門的なことも多いので業者を探すにも苦労する。“どういう状況の児童・生徒が”、“どの学校にいて”、“どこの業者・いくらで”、“どんな施設整備をし”、“どんな備品を購入したか”といった情報の共有化をするべきであるといった意見も出された。

4. 助言者のまとめについて

助言者からは、チーム・共同実施で先輩を使って各機関を動かしていこう。毎日が財務との戦い。日々の実践を大切に！事務も主張・アピールを！とのお話をいただいた。



八代地区の先生方の事務だよりが掲示してありました！

第3分科会「事務改善」

分科会記録者（阿蘇地区：佐藤紘史、宇城地区：藤田万理、吉野和子）

1. レポートの概要

第1レポート（阿蘇地区）では、【3QNet!あそ】と題して、1999年より阿蘇都市教育研究会学校事務部会で運営している「あそじむ NET」と事務職員を取り巻く環境の変化に伴い、地区研の持つホームページの役割が「事務改善」、事務職員同士の「絆、繋がり」の面においてさらに発展していくことを願い、発表しました。

第2レポート（宇城地区）では、【美里町のできたしこ！共同実施のステップアップ】と題して、事務職員会として組織が存在していないため、研修の機会が少ない美里町の共同実施における研修についての『できたこと』ではなく『できたしこ』と、新たに共同実施単位での研修体制に変えた宇城地区の地区研修について発表しました。

2. 分科会の流れ

（午前：阿蘇地区）

阿蘇地区レポート発表の後、休憩をはさみ、レポートに関する質疑応答、意見、感想を出してもらい、発表側から会場への発問を行い、回答をいただきました。その後第1レポートについて助言者より簡単にまとめをしていただきました。

（午後：宇城地区）

宇城地区レポートの発表の後、2分間のシンキングタイムを設け、レポートに関しての意見や感想を出してもらい、質疑応答を行いました。その後、第2レポートについて助言者より簡単にまとめをしていただきました。休憩をはさみ、総括討議を行いました。助言者より各発表者へ質問があり、それに各発表者が答えるというパネルディスカッション形式で行いました。

3. 研究内容と交わされた論議

（午前：阿蘇地区）

発表者側より、他地区では「業務に困ったとき、わからないときにどのように解決しているか」の発問に、「電話で聞く、共同実施において解決をする」といった意見が多く、解決した事例について事例集として紙媒体で共有するという地区もありました。さらに「事務職員の仕事は事務職員だけでなく、他機関とのネットワークツールとしてのアイデア」を会場に求め、他機関や地域向けのコンテンツに関する意見もいただいた。

外部から見たあそじむ NET ということで、助言者より行政と学校との違いから「行政では横のネットワークは全く無い」ため大切なものであるという意見、また、今後の運営・改装を考えたとき、事務職員外にも用務を発展させるためには、「教職員や地域の協力の窓口や、どこでも通用する幅広い力を付けるため、研修の情報を周知する役割等の展望があり、事務室、県内にとどまらず全国規模に目を向けてほしい」という意見をいただきました。

（午後：宇城地区）

「共同実施は、ひとりひとりの事務職員としての可能性が広がる場であり、それが各地区の研修会に繋がっていくだろうといういろんな方向性を感じた」といった、共同実施と研修について様々な意見が出ました。また、美里町の共同実施の今後の方向性が定まっていないため、まず市町村教育委員会との連携強化を考えている美里町から「各地区の現状について教えて欲しい」という質問に対し、各地区の研修について意見をだしていただきました。年度当初に研修計画をたて、市町村教育委員会の担当者にできるだけ一緒に研修会に参加してもらうよう了承を得ている地区もあるということでした。

この市町村教育委員会との連携強化について、助言者より西原村での共同実施を立ち上げたときの話を例にまとめていただきました。西原村においても、町の財政担当や総務課、システム課を巻き込み、連携強化をしていったことで成果がでたということでした。また、今後の地区研の在り方につ

いて、『研究』する場所なのか『研修』する場所なのか『連携強化の母体』なのか、という問題提起がされ、総括討議へと移っていきました。

(総括討議)

総括討議では、発表者と助言者のディスカッションから全体へ投げかけ、今後の地区研の在り方について、まず宇城地区の研修について話をしていただき、宇城地区では『研修』をどうやって行うかを『研究』しているということでした。阿蘇地区では、研究団体なので、4分科会に分かれて研究をしているということでした。また、他の地区の地区研について現状を話していただき、研修した情報を全県下での統一ができたといった『共有化』についての課題も見えてきました。

4. 助言者のまとめについて

各地区研で研修が必要とされている状況に、行政では共同実施に関して、全く話に上がらない現状だから、もっとアピールし市町村教育委員会や県に研修をして欲しいと要望していくべきだと助言をいただきました。また、事務研組織の在り方を、今もう一度考え直すときにきているのではないかとということでした。

共同実施は、学校の事務業務をするものであって、学校事務をするものではない。つまり、点検作業のみで終わらず、地域の中での学校の役割を、地域や役場と一緒に考えていくためのネットワークづくりをやってみては？と、今後の共同実施の方向性をお話していただきました。最後に、教育行政職員として必要なスキルについて、今から研究がされ、今後はその力を身につけていかなければならないときが来る。そのため、その情報に敏感になっておくべきだとまとめていただきました。



助言者の神保さんによるまとめです。

第4分科会 学校事務ステップアップ講座

コミュニケーションスキルアップ講座 ～会議上手になろう～

講師 熊本県生涯学習推進センター審議員 上杉 奈緒子 氏

分科会記録者（研究部：松田真理子）

1. 分科会の概要

本分科会は、本年度から学校事務ステップアップ講座として設けられた。「学校事務ステップアップ講座 コミュニケーションスキルアップ講座～会議上手になろう～」と題して熊本県生涯学習推進センター審議員の講師の上杉奈緒子氏の進行で進められ、参加体験型の研修形式で行われた。

2. 分科会の流れ

午前中は、まず最初に熊本県生涯学習推進センターについての紹介があり、今日のめあて～ゴール～を提示された。そして、オリエンテーションの中で参加の約束やファシリテーターの役割を話された。続いてウォーミングアップの自己紹介、ペアワークのちょっとだけ深い自己紹介で全く知らない人達とのコミュニケーションがとれ、数十分間で親しくなれたような感じがした。また、この一日で（昨夜の10時から今日の朝10時まで）で「いい出来事」を10個書き出す作業を指示されたのだ

が、「いい出来事」はなかなか出てこなかった。悪い出来事は人の記憶に残りやすいが、この作業を通して日々の当たり前の「いい出来事」に包まれて生活していること・その当たり前の「いい出来事」に感謝しながら生活していくことの大切さを感じた。

午後からは午前中とは違う新たなグループを誕生日チェーンを使って分けられた。この誕生日チェーンもお互いが誕生日を聞くだけなのに、なぜかとても和やかな雰囲気になった。そしてグループワークの会議演習はどれも～会議上手になろう～というスキルアップのための内容が盛りだくさんでとても充実した講座となった。

3. 研究内容とまとめ

グループワークの会議演習課題は、「あなたの職場の会議の問題点について」「事務職員としての仕事の悩み(課題)について」という内容だった。会議の基本的な進め方として、「共有(知り合う)～発散(語り合う)～収束(折り合う)～活用」というポイントを最初に説明され、順番に進行役を交代して会議を進めていった。この演習では、ホワイトボードを使って話し合いを進めていくのだが、聴きながら書くことの難しさや人の意見を端的にまとめて書くことの難しさを改めて感じた。

また、一人一人がファシリテーター(進行役)としての役割を経験することができた。ファシリテーターは単なる司会ではなく、参加者の知識・経験・意見や思いを引き出す役割があるのだということ学んだ。その人が伝えたいことと相手に伝わったことは必ずしも同じではないとも講師の先生は言われていた。単純に会議をするのではなく、様々なルールや手法があってそのことを踏まえて会議をしていけば、活発で短時間で有意義・充実感のある会議になるのではないかと思った。

一日を通してあっという間に時間が過ぎ、とても充実した内容だったと思う。参加体験型の研修は、なかなか経験がない方が多いのではないかと思う。ファシリテーターというあまり聞き慣れない言葉で何だろうと思われた方も、実際に体験することができて～会議上手になろう～というスキルアップにつながったのではないかと思う。

このようなコミュニケーションやファシリテーター等のスキルアップは、これからの学校事務職員にとって必要不可欠だと思った。学校事務職員にとって有意義な講座を次年度に向けて考えていきたいと思う。

【参考】 当日の講師のレジメより抜粋

1 はじめに

熊本県生涯学習推進センターについての紹介

2 今日のめあて～ゴール

- ①良好なコミュニケーションスキルを身に付ける。
- ②話し合いの際に必要なファシリテーションスキルを身に付ける。

3 プログラム

(1) オリエンテーション

○参加の約束・・・①受容②微笑みとうなずき③秘密厳守

○ファシリテーターの役割とは・・・①安心安全な場所を作る②相手を信じる ③揺るぎない心

(2) ウォーミングアップ:自己紹介

「話す」「聴く」バランスを整える。

(3) ペアワーク: ちょっとだけ深い自己紹介

「聴く」ポイント=ゆるす(耳を傾け注意して聴き取る。)

相手の感じていること、伝えたいこと、言わんとしていることを相手の思いに沿って理解すること。

「訊く」ポイント: オープンクエスチョン・・・具体的には?どんなイメージ?

クローズドクエスチョン・・・いつ、どこで、いくつ、何人?



(4) グループワーク：ホワイトボードミーティング(視覚化の効果)

- ①議論のポイントに集中できる
- ②共通の記録になる
- ③発言が定着し、安定感がある
- ④発言を人から切り離す
- ⑤発想を刺激し、議論が広がる

基本的な話し合いの進め方

共有 ～ 発散 ～ 収束 ～ 活用

(知り合う) (語り合う) (折り合う)

○会議をやってみよう「あなたの職場の会議の問題点について」

「事務職員としての仕事の悩み(課題)について」

(5) 全体の振り返り

Keep このまま続けたい。	Try これからやってみたいこと。 持ち味を生かしたいこと。
Problem これは難しい。 苦手だと思うこと。	工夫したいこと。



上杉先生のたのしいお話
に、会場の雰囲気も自然と
和やかになっていました。



5～6人グループに分か
れて、ファシリテーターを
体験中です。

お便りと短歌

本研究大会におきまして、一日目の全体研究会にてご講演をいただきました、前石巻市立中里小学校長 赤瀬博行 様と、熊本県小中学校長会会長 熊本市立西原中学校長 本田恵典 様よりお便りと短歌を本会員のためにいただきました。会報にて、みなさまにご紹介させていただきます。

赤瀬先生からのお便り

前略。先日はご丁寧なお礼状を送っていただき大変ありがたうございました。あなたも石巻に戻り、研究会の準備をやり直さずには、講演会の方も、勉強の方も、もう少しポイントを取り、時刻配分を適宜で調整するのは、^お復習して下さる。このことから、あの2日間の研究会は私自身にとりまして大変勉強になりました。

平成27年の全国大会と対価を水泳の大会ですが、熊本の本務研究会の皆様の研究意欲の高さを見まわし、今の皆様の努力が必ずや実を結ぶ。すばらしい大会に仕上がったと確信しております。

21日ガキを帯びて最中もシベリアから飛来した白鳥の群が、いっせいで上空をリーダーを中心に南下は行きます。いよいよ冬の到来です。ご健康には十分留意されて仕事も研究もお楽しみ下さい。おれ、全員の皆様にもよくお伝え下さい。 算々

本田校長先生からの短歌

窓口の

笑顔の人の 耀きて

事務室の風

学校変ゆる

楽しいひとときをありがとう
ございました。



～編集後記～



今回は、10月に行われた研究大会特集ということで会報を作成させていただきました。各分科会の記録等、原稿依頼にご協力いただきました方々、ありがとうございました。

今年は、10数年ぶりの分散型分科会での運営や事務職員ステップアップ講座など今までとは少し違う研究大会でしたが、会員みなさまのご協力により無事に大会を終えることができました。皆様からのたくさんのご意見やご感想は次大会へつなげていきたいと思ひます。

さて、早いもので今年もあと20日足らずとなりました。会員の皆様にとって今年はどうな一年だったでしょうか？私ごとですが、研究部員として、さまざまな経験ができ、充実した一年だったと思ひます。

これから、まだまだ寒さの厳しい日が続きますが、みなさまどうぞお体には気を付けられ、良いお年をお迎えください。そして、来年も皆様にとって良い年でありますように……☆

